

やまぎん

# アジアニュース

平成 30 年 11 月

●釜山支店Tel010-82-51-462-3281 ●青島支店Tel010-86-532-85766222 ●大連支店Tel010-86-411-83705288  
●香港駐在員事務所Tel010-852-2521-7194



## 【大連支店】

「山口・広島・福岡から大連へ、中国へ、そして世界へ」

### 1.はじめに

中国では節句を重んじる文化があり、中国の3大伝統節句には春節（旧暦1月1日）、端午節（旧暦5月5日）、中秋節（旧暦8月15日）があります。今年の中秋節は9月24日でしたが、日本の「中秋の名月」と同様、この日は中国においても「月餅」（饅頭のようなもの）<sup>ダンラクセツ</sup> や果物をお供えし、月見を楽しむという風習があります。また、中秋節は「団欒節」とも呼ばれ、大変おめでたいという意味もあります。中秋節は3連休となり、気候的にも過ごしやすい時期であることから、家族での観光・食事・ショッピングなど一家団欒で過ごされるようです。こうした時期に、大連では日本と中国を結ぶ大きなイベントが開催されました。一つは「2018 遼寧省中日商談会」、そしてもう一つは「第10回大連日本商品展覧会」です。今回は、日本・中国の企業が一堂に会し、大盛況であったこの2つのイベントについてご紹介したいと思います。



## 2. 「2018 遼寧省中日商談会」

9月19日、遼寧省瀋陽市の遼寧友誼賓館で「2018 遼寧省中日商談会」が昨年に引き続き開催されました。今回、会場となった遼寧友誼賓館は、ユネスコ世界文化遺産に登録された北陵公園内にあります。この北陵公園は清朝 2 代目の皇帝である皇太極とその妻である孝端文皇后の陵墓があり、建築物からも清朝初期の文化を知ることができます。また、政府が国賓を迎えるために利用される場所でもある為、来場者の多くは会場の豪華さと歴史観溢れる街並みに感嘆の声をあげます。



このたびの商談会では、遼寧省瀋陽を含む東北 3 省が振興策として求めている、①自動車部品、電子機器、石油加工、鋼材建材等の製造業②ハイレベルのデジタル機械、工業用ロボット、新材料等の新素材・新産業③農機設備、水耕栽培システム等の現代農業④金融、物流、観光、健康等のサービス業⑤衣食住にまつわる日用生活品の 5 分野で参加企業を募集し、日本側 110 社、中国側 620 社が参加しました。商談会は 1 対 1 の個別商談方式に加え、今年は自社製品を紹介できる展示スペースが商談会場とは別に設けられました。展示スペースには、日本の補正下着や健康食品、機械部品、調味料など多品種が展示され、参加企業は出展企業への質問や手触り、試食、試飲の他、バイヤーとして商品仕入の商談もその場で行っていました。

事後のアンケート結果によりますと、今回は全体で約 1,300 件もの商談が行われ、10 件が成約に至りました。また、約 350 件が継続案件として進捗中です。内容を見ると、製造業よりも食品関係の商談ニーズが高く、日本側参加企業の満足度も高い結果となりました。一方で、当初の約束時間どおりに中国側企業が来場しない、連絡が取れないといった海外ならではの課題もありました。

### 3. 「2018（第10回）大連日本商品展覧会」

9月21日から23日の3日間、大連市星海広場の大連世界博覧広場ホールで「2018大連日本商品展覧会」が開催され、第1回の2008年から今年で10回目の記念開催となりました。この展覧会は、日本商品に特化した販売会で、初回開催以来、2,500社に近い企業が出展し、食品や日用品、地方観光PRや文化教育、電子、医療、IT産業や機械、工業製品等、今回は約360社の企業・団体が出展しました。来場者は中国の一般消費者が中心ですが、バイヤーも来場し、中秋節の連休とあい重なって延べ7万人の来場があり大変賑わっていました。出展企業の多くは、これだけ集客力の高いイベントは日本ではなく、会場が来場者で混雑する熱気と実際の消費行動（値引き交渉、質問、慣習）に驚かれ、来年も参加したいという前向きなご意見を頂戴しました。



今回初めて参加された、山口県の洋菓子企業様は、日本で高い評判のチーズタルトが中国では受け入れられるのか、実際に試食販売して手応えを得たようです。意外にも中国の方々は「日本のチーズタルトは甘すぎる」という意見が多かった一方、訪日経験のある方は懐かしがられ、2・3個まとめ買いするなど、今後のビジネス展開を考えるうえでは非常に参考になったとおっしゃっていました。また、広島県から参加されたお好みソースを製造する企業様ブースには初日から多くの来場者が列を並べ、かつてない昨今の和食ブームと東北地方の辛い物が好きという嗜好も合い、辛めのソースが人気を博していました。金欄キンランメーカーの企業様ブースには、若者が母親の誕生日プレゼント用に珍しい商品を探されており、高価な商品であった金欄織の傘を購入されました。私どもスタッフが一番驚いたのは、金蘭の反物をおもいだすだけ欲しいというお客さまです。そのお客様にお聞きしたとこ

ろ、日本にいる中国人の知人から、金蘭の織物メーカーが大連の展覧会に出展すると聞き、当日朝北京空港を経由し、3時間かけてわざわざ来場されたということでした。そのお客様は書画をされており、金蘭を用いた表装に強い関心をお持ちでした。



また、会場では茶道体験や生け花の実演、和太鼓の演奏など日本の伝統文化も紹介され、経済のみならず、文化の面においても大連と日本の結びつきの強さを改めて感じました。これから中国進出を検討する企業様におきましても、他の都市と比べ日本商品を受け入れやすい大連では、中国進出を試される場所として優れていると思います。

#### 4. 終わりに

今、大連を含む東北三省（リョウネイショウ 遼寧省、コクリェウコウショウ 黒竜江省、キツリンショウ 吉林省）では経済振興策として、貿易促進が大きなテーマとして掲げられています。日本製品を中国で製造していた頃とは様相を変え、製造受託から今や一般貿易へと軸足が移りつつあります。中国国民の平均所得が継続して上昇していることに加え、安全・安心を求める結果、富裕層から一般消費者へ日本ブランドが浸透しつつあります。

また、中国政府・民間団体も日本商品・製品の誘致に非常に力を入れており、昨今の米中貿易摩擦を背景に相次いで関税を引き下げています。また、11月5日に上海で開催した「中国国際輸入博覧会」では、習近平国家主席が、今後15年間でモノ・サービスの輸入額が約40兆ドル（約4,500兆円）を超える見通しを明らかにするなど、一層の市場開放と輸入拡大をアピールしています。

日本から中国への越境EC（インターネット経由で海外から直接商品を購入する取引形態）の市場規模も急成長しており、大企業のみならず中小企業のお客様に対しても平等に門戸を広げています。今後、日本国内において、人口減少やテクノロジー・環境の変化等、目まぐるしく周囲が変化していく中、企業経営する中で新たに起こりうる変化や問題に対し、これらのイベントに参加することで、新しいビジネスチャンスを見つけることができるかもしれません。

「遼寧省中日商談会」はB to B（法人向け商品）の商談会形式であり、大連市より少し離れた瀋陽市周辺の企業が多く参加する為、東北地区の新しい顧客を開拓できるチャンスがあると考えます。また「大連日本商品展覧会」はB to C（消費者向け商品）の販売会形式であり、日本商品の良さを知り尽くしたお客様が多いのですが、同時にニッチな商品を求めているお客様も多いように思います。来年、これらのイベントに興味があり参加を検討される際には是非ご相談下さい。

山口・広島・福岡から大連へ、中国へ、そして将来的には世界へ、御社の商品・サービスを以ってチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。大連支店でも引続き様々な情報を発信し、企業様の抱える悩みを解決できるお手伝いをさせていただきます。

（山口銀行大連支店 池岡 慶了）